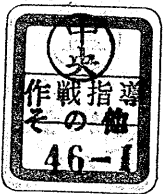


海上挺進部隊に関する記録

才一復員局

防衛研修所図書館



終

作72のB

海上挺進部隊ニ關スル記録

昭和二十一年十一月
西浦中佐案

は
477
3-3

一、海上挺進部隊創設ノ由來

二、用法、戰術法

三、編成及要員養成

四、研究、教育

五、大本營ノ海上挺進部隊使用企圖（岩越中佐）

六、海上挺進部隊ノ作戰

（西浦中佐）

（西浦、岩越、神）

一、海上挺進部隊ノ創設由來

昭和十八年頃ヨリ南東方面ノ戰況逐次悪化シ次デ中部太平洋方面亦敵ノ進攻スル處トナル軍公斯ル小島嶼ノ防禦ニ關シテハ航空ノ優勢ヲ以テ之ニ對シ殊ニ敵上陸艦隊ヲ海上ニテ擊滅セントセシモ航空ハ常ニ敵ニ一籌ヲ輸ジアル狀況ナルヲ以テ何等カノ手段ヲ講ジ敵ノ上陸前海上ニテ擊滅スルノ方途ヲ研究中ナリ

然ルニ物量ヲ誇ル敵ニ對シ物量ヲ以テスル對抗ハ兩國ノ一般狀況上到底見込ナク茲ニ有ユル方面ニ巨リ捨身ノ戰法ヲ以テ必死敵ニ体當リヲナスベキ所謂特攻戰法ヲ採用スルヨリ他ニ方途ナシトスルニ到レリ

尤モ一方他ニ帝國獨特ノ科學技術ノ精隨ヲ網羅シテ之ガ對策ヲモ常ニ研究ハ續行シ且研究又ハ著想ニ於テ成功セルモノアルモ大量整備其ノ他實用ノ域ニ到達セシムル爲ニハ幾多ノ隘路ヲ包藏シアリ又忽々ノ間教育ニ便ニシテ訓練ノ精到ヲ期スルノ要アル等ノ爲自ラ

終

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32

技術、戦技的ニモ簡單ナルヲ要求セララルルニ到レリ

昭和二十年四月在宇品船舶司令部ニ於テハ當時ノ司令官鈴木宗作中將以下海軍ノコトハ我々船舶部隊ノ手ニテ處理スベシ航空部隊ニノ島嶼防禦ヲ委任シテ可ナリヤトノ熱烈ナル意見拾頭シ最モ簡單輕量ナル人間魚雷式ノモノヲ事前ニ豫想敵上陸點附近ニ無放配置秘匿シ敵ノ上陸ニ方リ上陸地點附近ヨリ發進目前ニ於テ上陸ヲ企圖スル敵輸送船ヲ攻撃セシムベシトノ着想ノ下ニ船舶本廠ヲシテ先ヅ各種小型快速舟艇ヲ試作セシメタリ同時ニ條件トシテ

1. ナシ得ル限り輕量小型ニシテ陸上秘匿臂力運般可能ナルコト
2. 時速機ネ二十浬以上ナルコト
3. 敵輸送船ヲ墜沈シ得ル爆薬ノ裝着可能ナルコト
4. 乗員ハ一名乃至二名ナルコト
5. 大量生産可能ナルコト

等ヲ示シ船舶練習部ニ技術的、戦術的ノ研究ニ從事セシメタリ

一 万大本營ニ於テモ技術研究所ヲシテ肉薄攻撃艇トシテ技術的研究ヲ促進シアリ又船舶司令部ノ兩連ノ講想ニ同意シ著々研究ヲ促進シ昭和十九年五月頃ニハ技術研究所ニ於テモ宇品ニ於テモ概ネ試作完了シ六月ニ入り東京灣ニ於テ最後ノ試験ヲ行ヒ技研型ヲ採用若干ノ改造ヲ加ヘテ遂ニ八月十一日頃迄ニ三千隻ヲ整備スルト共ニ用法的研究ヲ進メツツ要員養成編成ニ逐次著手スルニ至レリ

當時海軍ニテモ同様ノ着想ヲ以テ研究セラレ合同ノ研究演習モ實施セララル艦軍試作艇ハ海軍ノモノニ比シ稍々優秀ナリ

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32

二用法、戰鬪法

船舶司令部ニ於テ自ラ此ノ種舟艇ヲ使用シ研究セル結果ヲ基礎トシ
大本營ニ於テ概定シ關係各部隊ニ示セル此ノ種部隊ノ用法、戰鬪法
ノ骨子左ノ如シ

1 現地ニ於ケル最高指揮官（通常軍司令官）ノ直轄トスルコト

此ノ種部隊ハ一部局部ノ戰況ニ眩惑セラルルコトナク敵ノ上陸企
圖ニ應ジ努メテ統一使用スルノ要アルト初固ノ使用時機如何ハ全
部隊ノ運命ヲ左右スルコト並絕對ニ企圖ヲ秘匿スルノ要アル等ノ
理由ニヨリ現地ノ最高級指揮官ノ直轄トシテ使用スルヲ可トセリ

2 企圖秘匿ヲ絕對ノ要件トス

本著想ハ有史以來ノ新企圖ニシテ而モ一度敵ニ企圖暴露セバ對應
ノ處置比較的容易ニ講セララルベクニ鑑ミ内地ニ於ケル舟艇ノ整備
ハ因ヨリ此ノ種部隊ノ存在、配置、戰法等各般ニ亘リ企圖ノ完
全ナル秘匿ハ作戰成功ノ絕對的條件ナリ

3 攻撃前ニ於ケル基地ノ秘匿及掩護ヲ十分ナラシムルコト^五

本舟艇ハ其ノ性能殊ニ其ノ速度ト航續力ノ關係上概ネ予想スル敵上陸點附近ニ配備スルヲ要ス然ルニ敵ノ慣用戦法ハ其ノ上陸點附近ハ常ニ事前ニ一物ヲモ殘ササル程度ニ艦砲射撃及機銃ニヨリ掃掃ニ努ムルヲ以テ出撃前ニ基地ニ於テ發見セラルルニ於テハ因ヨリ發見セラレサル場合ニ於テモ十分敵ノ砲撃ニ抗シ待ベキ掩護ヲ有スルニ非ザレバ攻撃ハ事實上不可能ニ屬ス故ニ現地各軍ハ位直ノ決定ニ留意スルト共ニ決定セル基地ハ其ノ秘匿及掩護ノ爲事前ニ十分ノ處置ヲ講ゼサルベカラズ

4 奇襲及大量一舉使用ナルコト

第一項ノ埤田ニ基キ當然ノコトニシテ假ニ戰略的奇襲ニ成功セルモ戰術的奇襲不可能ナラバ敵ニ應急對應ノ處置ヲ講ゼルベク此ノ際ニ於ケル對策トシテ數量ニヨリ敵ラシテ對應ノ處置ナカラシメ假ニ百隻ヲ以テ攻撃シ敵ニ發見セラルルモ半數又ハ三分ノ一ニテモ目標

ニ到達シ待ル如ク而モ各方面ヨリ同時ニ攻撃ヲ行フコトニヨリ目的ヲ達成スルコトヲ待ベシ

又奇襲ノ爲ニハ本部隊ハ夜間攻撃ニアラサレバ實行不可能ナルコト勿論ナリ

5 攻撃時機、攻撃目標

目標ハ舟艇ノ有スル威力及速度(二〇節)航續力(約五時間)ヨリシテ泊地ニ進入シアル敵輸送船ヲ主トシ情況ニ依リ已ムヲ待サレバ輕艦艇トス其ノ時機ハ軍司令官ノ命ニヨリ敵輸送船團ノ泊地進入直後ヲ最モ適當トスルヲ以テ通常敵上陸當日未明迄已ムヲ待サレバ翌日ノ夜トス

6 攻撃要領

戰隊長指揮ノ下高級指揮官ノ命ニ基キ日没後泛水シ概ネ一戰隊(百隻)又ハ一中隊(概ネ三十隻)毎ニ航行シ目標ニ向ヒ接敵前進ス此ノ間敵護衛警戒艦艇ニ遭遇セハ警戒艇又ハ一部ハ之ニ犠牲的ニ

2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 1 2

体當リシ主カラシテ之ヲ回避セシメツツ一意目標ニ向ヒ前進ス
目標タル敵船團ニ對シテハ通常同時ニ(數戰隊協同シテ攻撃スル
場合ニ於テモ)攻撃シ得ル如ク目標ニ接近セバ分散シ概ネ三一九
隻ヲ以テ敵一輸送船ヲ目標トスル如ク各方面ヨリ攻撃ス
攻撃ハ即チ体當リ肉彈ノ要領ヲ以テ敵船ニ接近シ接觸時爆雷投下
ニヨリ敵船沈没ヲ圖ル

概ネ以上ノ著想ヲ以テ運用ヲ律セラレタリ然ルニ比島、沖繩等ニ
於ケル經驗ニ鑑ミ大量一舉使用ハ逐次時間的縱長使用ヲ可能ナラ
シムルト共ニ之ニ伴ヒ必スシモ其ノ基地ハ海岸ニ限定セズ寧ろ陸
上奥地ニ秘匿シ必要ニ應ジ陸上機動ニヨリ海岸ニ泛水シ逐次攻撃
セシムルコト可能ナルニ至レリ

又初回ニ於テ全般的企圖ハ已ニ暴露シアルモ用法殊ニ使用時機當
ヲ得レバ今後ト雖モ不成功ト斷定シ得ザルニ至リシ爲比島作戰後
ニ於テモ各軍ハ此ノ海上挺進作戰企圖ヲ放棄スルコトナカリキ、

三、編成及要員養成

海上挺進部隊ハ所謂特攻ニ任ズベキ戰鬥部隊即チ海上挺進戰隊ト其
ノ基地設定、舟艇整備等基地作業ニ任ズベキ海上挺進基地大隊トニ
分ツ而シテ戰隊ハ數ヶノモノヲ某軍ニ隷屬セラルル場合ニ於テモ之
等ハ夫々直接軍司令官ノ直接ヲシムル如ク之ガ統轄機關ヲ設ケザ
リシモ基地大隊ハ之等ヲ直接高級指揮官ニ直轄セシムルハ繁ニ堪へ
ザルヲ以テ數箇基地大隊ヲ統轄スベキ海上挺進基地隊本部ヲ編成ス
ルコトトセラレタリ

又戰隊ト基地大隊トノ關係ハ一戰隊ニ對シ一基地大隊トシ同一番號
ヲ組合スコトトシ若シ戰隊長ガ基地大隊長ヨリ先任ノ場合ニハ別命
ナク當戰隊ノ基地勤務ニ關シ基地大隊長ヲ區處シ得ル如クセラル
戰隊ハ長以下約一〇〇名舟艇(企圖秘匿上連絡艇ト稱ス)約一〇〇
隻トシ之ヲ指揮機關及三中隊ニ分ツ一中隊ハ連絡艇約三〇隻ヨリ成

2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32

戰隊ハ戰術單位、中隊ハ戰術單位トシ中隊ハ更ニ之ヲ三小隊（群）ニ分チ小隊（群）ヲ以テ最小ノ單位トス
戰隊長ニハ凡テ正規ノ陸軍士官學校出身少壯ノ少佐、大尉ヲ充當中隊長ニハ主トシテ昭和十九年任官スベキ陸軍士官學校第五十七期生中船舶兵ノモノヲ主體トシソノ他幹部候補生出身少壯中、少尉中特攻志願者ヲ以テ又小隊長（群長）ニハ昭和十八年徵集兵中ノ船舶兵甲種幹部候補生ヲ主體トシテ概ネ見習士官ヲ以テ又一般ノ兵ハ昭和十九年度第一次採用船舶兵特別幹部候補生ヲ主體トシ其ノ他不足ノ分ハ之ヲ船舶兵其ノ他廣ク全軍ヨリ少壯特攻志願ノ者ヲ採用編成セリ
第一次編成ハ九月上旬船舶司令官管理ノ下ニ第一乃至第十戰隊引續キ第十一乃至第三十戰隊迄編成セラレタリ
右ノ内第一乃至第十戰隊要員ハ八月十日頃ヨリ逐次小豆島船舶兵特別幹部候補生隊ニ要員養成第十一戰隊以下ハ九月上旬以降廣島灣ニテ要員養成セラル

基地大隊ハ作業三中隊整備一隊ヨリ成リ總人員約一〇〇〇名ナリ
之ガ要員養成ハ在廣島船舶司令部整備教育隊ニ於テ擔任セリ
四 研究教育

船舶司令部ニ於テハ七月中旬各隷下部隊ヨリ適任ノ將校三十名ヲ簡拔シ船舶本廠ニテ試作セル舟艇三十隻ヲ配當シ廣島灣内ノ離島島ニ位置シ將來ノ該部隊編成基幹人員トシテ用法的研究及教育ニ著手ス
昭和十九年八月ニ入ルヤ廣島灣ニ於テ此ノ種部隊要員ノ教育並ニ研究ハ防諜等ノ關係ヨリ適當ナラザルト將來船舶兵特別幹部候補生中ヨリ右部隊要員ヲ充足セントスル意圖アルトニヨリ右船舶兵特別幹部候補生隊ノ在ル瀬戸内海小豆島ニ之ヲ移動セシメ船舶兵特別幹部候補生隊長ノ指揮下ニ入ラシメ研究訓練場ヲ小豆島西側ノ豊島南方ノ海岸ニ指定シ秘カニ研究及要員教育ヲ實施スルコトトシ九月上旬迄之ヲ續行セリ

2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32

此ノ間此ノ部隊ニ關スル戰術的研究、編成案等逐次具體化シ九月上
旬以降遂次軍令ニヨリ部隊ヲ編成セラルルニ至レリ
一方大本營ニ於テ船舶司令部ニ於ケル研究ヲ基礎トシ該部隊ノ用法
及部隊訓練並ニ戰鬪ノ準備タルベキ一海上挺進部隊戰鬪教令ヲ發
令シ之ニ依リ訓練、用法ノ準備ヲ與フルト共ニ現地關係各軍參謀長
及主任ノ參謀ヲ招集シ字品及小豆島附近ニ於テ教育研究中ノ部隊及
舟艇、訓練ヲ供覽普及教育ヲ實施スルト共ニ近ク配置セラルベキ各
軍ニ於ケル現地事前ノ準備促進ニ資シメラレタリ
昭和十九年九月概ネ第一乃至第十戰隊迄ノ基本教育ヲ忽ノ間ニ實施
セル後此ノ部隊ノ教育（要員養成）ハ諸般ノ關係上再ビ字品ニ移シ
船舶練習部長ノ指揮下ニ入ラシメラルルニ至レリ
各戰隊ハ所謂特攻部隊ナルニ拘ラズ情勢ニ即應セシメントスル爲殆
ト事前ノ訓練ヲ實施スルノ邊ナク
部隊ヲ編成シ直ニ各現地軍ニ推進セラレタルヲ以テ訓練ハ將來戰鬪

配置ニ就キタル後及推進ノ途中ニテナザサルヲ得ザル悲シムベキ情
況ナリ、如之内地ニ於ケル基本訓練ハ練習用舟艇ノ不足ニ伴ヒ一人
當リ配當セラルベキ訓練時間ハ極メテ短少ニシテ情勢上急ヲ要スト
ハ言ヘ特攻部隊將兵ノ訓練トシテハ余リニモ簡單ニ過ギ確乎タル必
成ノ確信ヲ有セシムルニ至ラザリシハ誠ニ遺憾トスルトコロナリ
斯シテ特攻精神ニ燃タル將兵ハ意氣衝天ノ感アルモ惜ラクハ概ネ戰
技ニ關シ自信ヲ有スル者ナク不安ノ中ニ現地ニ逐次推進セシメラル
現地ニ到着セラレタル各部隊ハ比島ニ於テハ基礎準備ニ著手忽ニシ
テ敵ノ出現ニ會シ因ヨリ準備極メテ不十分ナリ又他ノ地區ニ於テモ
現地即チ自隊ノ戰場ニシテ企圖秘匿ノ必要上海上訓練ハ制限ノ止ム
ヲ得ザル狀況ナルノミナラス燃料ノ不足ハ亦此ノ貴重ナル訓練不可
能ノ重大ナル因子トナリ實踐必ズシモ擧テザリシ重大原因トナルニ
至レリ
作戦上ノ要求トハ言ヘ殊ニ此ノ種特攻隊要員ヲ必成ノ確信不十分ナ

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32